

神々の移住地 豊の国

縄文時代においては、人や獣、草木などという境界線は存在せず、共生と調和こそが宇宙の真理であった。

昂 崇

的な発見があった。

二十歳の頃、奥飛騨の両面窟にて何らかの神秘感を味わつて以来、二十歳代前半の楽しみは東日本の縄文時代の環状列石を見聞することだった。

それらの遺跡に立つてみて感じられることは、環状列石からは標高の高い山や秀でた形の山が見える場合が多いということである。

このような山は縄文時代の人々にとつては聖域であり、死んだ人の魂が宿る場所であつたのだろう。

環状列石とは墓域でもあり、死者の魂を聖山や天界へ送る儀式「イ・オマンテ」を執り行う場所でもあるのだと思う。

環状列石を見聞した後は、研究対象の比重を神社と御神体山の関係に移していくのだが、縄文人の世界観は神道の思想にも強い影響を与えているような気がしてならなかつた。

二十歳代中頃の九州旅行では運命

」とを憶えている。

その「一本一組構造」を持つ巨石分布している」という走説に反して、九州の大分県地方に環状列石がいくつか分布しているという噂を聞いた。僕は好奇心にかられて国東半島や別府湾沿岸地域を訪れたものである。旅に持参した折りたたみ式のノコギリで太い雑草を刈つていくと、大湯環状列石よりも大規模な環状列石が現れたこともあり、神社の境内に巨石を組んだ環状列石が本殿のように鎮座していたこともあって、それ

を目にしたときは定説に対する疑問を率直に感じ、古代巨石文化の奥深さを痛感したものだった。

そして大分県でも宇佐地方においては、柱状の石を立てて祭り場や墓域とする「立石遺構」が多く分布していることが判明し、大分県といふ限られた地方の中でも、巨石文化の地域性があることを認識した。

その中でも宇佐の米神山では、二本の立石を並べて立てた遺構を山中や麓で何組も見たため、古代人達から大きな研究課題を与えられたよう

な気分になり、無性に楽しくなつた

巨石文化

「山の縄文共和国」と一つの

さて縄文遺跡の見聞を続けてきて判明したことは、巨石文化には環状列石と立石という二つの流れがあることだった。

そのうち環状列石については、今から五千年以上も前の縄文前期と呼ばれる時代に、信濃の国の諏訪地方において、北極星を中心とする天体の運行を表現した遺構として発生したらしい。

続く縄文時代中期に入ると、環状列石文化は信州周辺地域にも伝わつ

て行き、甲州（山梨県）都留の牛石遺跡、飛騨高山の垣内遺跡、下野（栃木県）塩谷の佐貫遺跡、伊豆半島の上白石遺跡、磐城地方（福島県東部）船引の前田遺跡など、規模の大きい環状列石の分布から考えていくと、中部山岳地帯を中心とした「山の縄文共和国」とも呼ぶべき文化圏を想定してもよいと思つ。

また同じく縄文時代中期、奥州日高見地方（岩手県北上市周辺地域）の樺山遺跡においては、柱状の石の周囲に放射状に石を配置した「石組」が発生した。

この石組は縄文後期に入ると、有名な大湯環状列石において「日時計形組石」となって、二重の同心円構造を持つ環状列石文化と合流し、やがて北海道小樽地方の忍路遺跡にまで二つの特質が伝わっていくようである。

これら奥州北部と北海道西部を中心とした地域は、同じ環状列石文化でも「日時計と同心円の環状列石」とも呼んでよさそうな固有の文化圏を形成しているので、中部山岳地帯を中心とする「山の縄文共和国」と

区別して、「北の縄文共和国」とも呼んでみたい。

ところで、「一」の一つの縄文共和国は弥生時代以降にどんな運命を辿つていったのだろうか。

この問題を「北の縄文共和国」について考えれば、その国人々は後の世でエミンやアイヌと呼ばれるようになつたのだろうし、アイヌ民族の文化や伝承などは縄文時代の記憶を見事に現代へと伝えていくと思う。だが、「山の縄文共和国」については実に不明な点が多い。

この国の人々は後の世において、「土蜘蛛」だと「鬼」だと、怪物として呼ばれるようになつたことは想像に難くないけれど、果たして全ての人々がそんな末路を辿つたのだろうか。

この疑問にたいして解明の糸口を与えてくれたものは、飛騨の国や豊の国の立石文化であった。

本列島において最も強い個性を持った地域のような印象も感じられる。一方、豊の国の立石文化は発掘調査された遺跡が乏しいために、その年代を特定することが困難ながらも、それらは何故か豊かな神話伝承に彩られている。

「三女神が降臨した縁起が伝承されている、宇佐の三女神社」

これらの立石文化の源流は日本列島のどこにあるのか、あるいは大陸のどこにあるのか。それは一つなのか、二つ以上なのか。

僕は縄文バカであり、学者ではないので、豊の国の立石文化に加えて、この土地の環状列石文化までをも縄文人や縄文人の子孫が担つたものだと考えてみたい。

では、そのように仮定したこと、豊の国の巨石文化は独自にこの土地で発生したものなのか、あるいは他の

「景行天皇と土蜘蛛族についての縁起を伝える、豊後山間部の俵積神社」

これらの伝承の時代背景は、おそらく弥生時代後半から古墳時代前半のことなのであろうし、「これらの年代不明な立石遺構の謎を解明するためには、神社の縁起伝承や民間伝承を分析する」ことが効果的だと思う。

加えて重要な点は、これらの立石文化を担つていた勢力が一つではなく、宇佐の豪族や部族、国東半島の海人族、土蜘蛛族など、複数で多様だということである。

「景行天皇と土蜘蛛族についての縁起を伝える、豊後山間部の俵積神社」

「景行天皇と土蜘蛛族についての縁起を伝える、豊後山間部の俵積神社」

の土地の人々が伝えてきたもののかどうか。

僕は、この土地の巨大な環状列石や数々の立石遺構を目にしたとき、こんな事を確かに感じたことがある。

古代の豊の国には、何らかの理由で多くの人が集まつて来たのではないかと。

それらの巨石遺構は、どうしても小規模の勢力が造つたものだとは感じられなかつたのである。

大規模な人の移動は時代の変わり目に起つるらしい。

そして、縄文時代の遺跡は東日本に圧倒的に多く分布しているのに、弥生時代になると遺跡の分布が西日本に大きく片寄つてしまつという現象があるけれども、これは縄文から弥生に時代が移行する過程で、東から西へ人口比重の大きな変動が起つた事を示しているとしか考えられない。

この現象は、縄文人の大量死と大陸人の大量渡来という観点で考えることもできるのだが、一方で、縄文話伝承との密接な関係を参考にする人の西日本への移住と大陸人の渡来という観点もあるはずだと思つ。

そのため、もし豊の国へと他の土地からの移住があつたとするならば、

それは縄文時代の終わり頃の事だと、いう推測を、ここでは提起しておきたい。

また、この推測を補うかのようない物証が発見された環状列石もある。

豊の国の内陸部、豊後犬飼の「神宿」という土地に存在する環状列石は、発掘調査こそされてないものの、「犬飼町史」によれば、ここからは縄文晚期の土器が表面採取されているというのである。

さらにも、遺構の一部分が発掘調査された環状列石もある。

それは国東半島国見の「鬼籠」という土地の山上に存在する環状列石であり、「国見町史」によると、遺構の一部分からは弥生時代や古墳時代の土器が出土したという。

この結果は、「環状列石は縄文時代の遺構」だとする従来の説に反しているので、驚きを感じる人も多いだろう。

しかし、この地方の立石文化と神話伝承との密接な関係を参考にするならば、これは充分に有り得る結果

だと思う。

豊の国においては、弥生時代になつても環状列石が造られ続け、古墳時代になつても祭祀が続けられているのである。

次に、豊の国の環状列石がすべて発掘調査された場合、果たして信濃の環状列石よりも古い時期の遺物は出土するのであろうか。

その謎を解く鍵は環状列石の形にこそあるようだ。と思うに、豊の国には楕円形の環状列石が多い。

だが本来の環状列石が、北極星を中心とした天体の運行を表現した遺構だとするならば、もともと田環の形は正円形だったはずである。

これに反して、楕円形、卵形、隅丸方形など、正円形ではない環状列石が造られるようになった理由は、

この本来の意味を時代と共に忘れてしまつたからなのであろう。

日本列島の先住民である縄文の民は、長らく幸福な時代を送つていたらしい。

縄文晩期の豊の国は、縄文前期の信濃と長い年月と距離が離れている。

そのため豊の国では、円環の形の他にも、環状列石 자체を山の上や尾根筋に造るなどして遺構の立地条件を変えたり、田環の内側に土を盛り上げた塚を設けたりして、この土地で環状列石の形態と築造場所を独自に変化させていったのではないだろうか。

このような現象は立石文化についても当てはまりそうな気がする。

つまり、縄文中期の飛騨古川から立石を直線状に並べたり、土の塚の上に立てたり、横倒しにして積み上げたり、立石自体を山の中腹や頂上に立てるなどして、それぞれの土地で立石遺構の形態と築造場所を独自に変化させていったのではないか。

この段階で出現していくものなのである。

代日本にも少し残っているようだ。

「足る」とを知る心である。

「足ること」を知らない人々は、必ず大地の恵みを独占しようとするのである。

当時は小国家のような地域集団はあっても、その国境を巡る利権で争うことはなかったのであろう。

野の獣や、海や川の魚、空を飛ぶ鳥などは、全てカムイの恵みであり、皆で分かち合うものであり、「イ・オマンテ」によって天上帝へお返しするものだったのである。

縄文時代においては、人や獣、草木などという境界線は存在せず、共生と調和こそが宇宙の真理であった。遠い昔に、現代人よりも遙かに早く、調和と共生の哲学を確立していた賢明なる縄文の民。

「」で偉大なる祖先に敬意を表し、縄文の民に神々の称号を送りたい。だが、長い調和の時代にも大きな変化が訪れた。

支石墓民族の渡来

紀元前八世紀頃、中国大陸では王

朝が滅んで混乱の時代が始まり、難民が生れて各地に離散したらしい。

その頃の朝鮮半島では、机や墓盤のような形の墓が多く造られていて、現在それらは支石墓と呼ばれている。支石墓には北方式と南方式の二種類の形がある。

北方式支石墓は、朝鮮半島北西部の黄海道や平安南道を中心には半島の北半分に多く分布しており（半東北東部の咸鏡北道には存在していないという）、古朝鮮などとも呼ばれる現在の中国東北部の遼寧省にも存在しているようだ。

北方式は、四枚の板状石を立てて長方形の石室を作り、その上に大きな板状の上石を乗せる構造を持つことから、卓子式支石墓という呼び名もある。

支石墓がドルメン（石の机）と呼ばれる理由も、北方式の形が机を連想させるからである。

一方、南方式支石墓は朝鮮半島南西部の全羅南道を中心にして、半島南半分に多く分布している。

南方式は、埋葬施設が地下に存在して上石だけが地上に出ていること

が大きな特質であり、構造が多様で分類が困難ながらも、大きく分けると上石の下に支石がある墓盤式（有

支石南方式）と、支石が無い蓋石式（無支石南方式）の、二つの形があるという。

墓盤式は、幾つかの石塊を支石として上石を支える形態であり、確かに墓盤の様にも見える。

蓋石式は、支石まで無くなってしまつた形態であるが、一応こんな形でも支石墓と呼ばれている。

南方式支石墓においては、上石の下の構造が変化に富んでいて、板石で構成された石棺がある形態や、割石を水平に積んだ石壠がある形態や、石室を中心にして石を積み重ねてある形態など、何種類もの形があるという。

ちなみに、朝鮮半島の支石墓に北方式と南方式があることを初めて発見した人は、世界的な人類学者として知られる島居龍藏博士である。

島居博士が大陸や日本列島を歩いて調査見聞をした時代は大戦前であ

る。

そして博士は、朝鮮の支石墓が日本にも伝わったことを想定して、九州各地などを歩いて啓蒙活動を続けた。

その後、北九州各地からは南方式支石墓に似た墳墓が続々と見つかり、発掘調査も行われ、ようやく博士の推測は証明されたようである。

いわば島居博士は、日本列島における巨石文化研究の元祖である。ただ島居博士の時代は、発掘調査による資料がとても乏しかったので、支石墓と呼んでいた。

博士の推測には誤りもある。

それは、北方式と南方式では、どちらの支石墓が古い年代に造られたのかという問題である。

この問題については、これまで色々な議論がなされたようだ。これを島居博士は、南方式がより古い年代に造られたと推測したのであった。

ところが最近の韓国考古学会では、シベリアあるいは中国東北部から伝來した石棺墓や積石塚が、朝鮮半島の北西部で独自に変化して支石墓が発生したという見解が広く受け入れられているという。

つまり、石棺墓の石室までもが地上に現れた形に変化すると、北方式支石墓になつてしまつという訳である。

そして北方式から南方式への変化については、環状列石と立石の話で使つた理論を再び応用して、以下のような説を展開してみたい。

それはまず、北方式分布域のどこかに、最も古い年代に造られた支石墓があつて、それが支石墓の原点になつたということである。

次に、その原点の遺跡から時間と空間が離れていくほど、支石墓は元の形から離れて、石室が埋没した南方式へと変化し、さらには上石の下の状態が様々な形へと分化し、支石までをも無くしたり、川原石や割石で石槨を造るようになつた、といふことである。

それ以後、南方式支石墓は北九州へと伝わり、そこでも独自の変化を遂げることとなる。

さて、日本の弥生時代の開始年代については引き続き議論がなされてゐるが、ここでは紀元前六世紀頃が

始まりだと仮定し、以後三百年ほど

の期間を縄文から弥生への転換期だと考えて話を進めていきたい。

その頃、朝鮮半島からの渡来人達は、まず玄海灘沿岸地域へと移り住んで、肥沃な土地で水田稲作を始めた定住した。

これらの人々の主な墓制は支石墓だつたのだろうし、唐津平野に分布するそれらは、数の上でこそ際立つてはいなくとも、渡来人達が最初に造つた支石墓だつたのではないか。

それから少しだけ時代が下ると、佐賀平野では大小いくつもの集落が形成され、数多くの支石墓が造られることになる。

その中でも、百十八基の支石墓が見つかった丸山遺跡や、四十三基が見つかった礫石（つぶていし）遺跡は、支石墓伝来期の代表的な拠点集落である。

これらの遺跡では、朝鮮半島の支石墓とは構造が変化しているようであり、上石の下の埋葬施設が大きく三つの構造に分けられ、弥生時代初期北九州における人々の死生観や社会の実相が伝わつてくる。

まず一つ目の形態は、埋葬施設が

石棺になっている支石墓である。

これは佐賀平野でも唐津平野において、それぞれ一つしか見つかつていいないので、どうしても地域の首長墓だという印象を受けてしまう。

今後これらの地域で複数の石棺支石墓が見つかたとしても、それが地域の有力者の墓だということに変わりはないと思う。

次いで二つ目は、壺棺の支石墓な

のだが、どうやら壺棺に葬られた人

は、早くして死んだ子供や乳児兒で

あるようだ。

しかも埋葬の方法は、壺棺を斜めに傾けて埋め、その脇部に穴を開けているというのだから、これは縄文人の死生観に極めて似ているといえそうだ。

その三つ目は、土壙の支石墓であ

る。

これは地面に穴を掘つて底に石を敷いたりした埋葬施設で、多くは成人の墓であるようだ。

これらの調査結果の中で特筆すべきことは、伝来期の支石墓遺跡から、縄文終末期の夜臼（ゆうす）式土器と、弥生初期の板付（いたづけ）式土器が出土することである。

この結果が示す事は、支石墓を伝えた人々が弥生時代を到来させたという事なのだろう。

この夜臼式土器と板付式土器は、刃の圧痕が付いた状態で出土する」とがあり、水田稲作の伝わりとは特

なるのであろうか。

また、これら佐賀平野に定住した人々は、数百年後には小国家のよう

に強力な勢力になつた可能性もあるだろう。

その勢力の残した足跡が、かの有

名な吉野ヶ里遺跡なのではないか。

なお、島原半島有馬の原山遺跡は、支石墓伝来期の大規模拠点集落であ

り、遺跡の破壊が進むまでは二百基近い支石墓が存在したという。

終戦後、北九州の支石墓遺跡は発

掘調査が相次いで、縄文時代末期から、弥生時代にかけての貴重な資料が

集められた。

これらは地面に穴を掘つて底に石を敷いたりした埋葬施設で、多くは成

人の墓であるようだ。

この形態は数の上で、佐賀平野や

唐津平野の支石墓の大部分を占めて

いるから、庶民の墓だということに

に關係が深い土器だと考えられていてる。

これら二種類の土器が出土した遺跡として、博多の板付遺跡は特に名高い場所である。

板付遺跡では、夜臼式土器だけが出土する縄文末期の地層から、畦や取水排水溝などの水田遺構が見つかり、定説を覆す発見などと言われて、学者研究者を騒がせたこともある。縄文時代の終わりには、すでに水田稻作が行われていたのである。

この調査結果から判断する限り、縄文人と渡来人が争っていたとは考え難く、むしろ、縄文人は渡来人と調和する道を選び、水田稻作を自ら受け入れたと考えた方が納得できる。

この他にも、縄文末期の水田遺構が見つかった場所には、糸島平野の曲がり田遺跡や、唐津平野の菜畑遺跡があり、初めて水田稻作の伝わった場所が、唐津から博多にかけての地域だということを実感させてくれる。

これらの分布地域は、支石墓が初めて伝わった地域と重なっているよ

うに感じられるし、土器形式の共通性も合わせて考えると、水田稻作と支石墓は、一緒に北九州へと伝わったような気がしてならない。

ところで、最近の考古学の調査によると、弥生初期の支石墓から出土した人骨を鑑定した結果、それらには縄文人によく似た形質が見られたという。

しかも、それらの人骨には、縄文時代の風習であるはずの、抜歯までが施されていたという。

支石墓は明らかに朝鮮半島から伝わった様式の墓であるので、この鑑定結果には少しばかり驚きを感じられる。

しかし、死んだ子供や乳幼児を墓棺に葬る風習や、縄文末期の夜臼式土器が出土することを考えると、意外にも北九州の支石墓は、縄文人と縄文人と渡来人は、速やかに相互理解して融和し、同じ場所で共生して混血していくのではないか。

態に対して、日本列島本州の縄文人達は大きな判断を迫られた。
そして本州の縄文人達は、ある程度の部族を北九州へと上陸させる決断を下し、その人々は小倉の辺りで二つの勢力に分かれた。
小倉から西へ向かった勢力は、渡来人と共生する道を選び、水田稻作や支石墓文化までをも受け入れて、時代と共に一体化していった。
一方、小倉から南へ向かった勢力は、渡来人は住み分ける道を選んだ。
この勢力の残した遺産こそが、豊の国の環状列石や立石遺構である。

「鳥居龍藏伝 アジアを走破した人類学者」中嶋英助 岩波書店 一九九五年
「人類学上より見たる我が上代の文化」鳥居龍藏 叢文閣 大正十四年

豊後速見 下山環状列石

から数多くの人々が移住してくる事

参考文献

「韓國の古代文化」韓炳二 日本放送出版協会 一九九五年
「アジアの巨石文化 ドルメン・支石墓考」八幡一郎・田村晃一編 六興出版 一九九〇年

「日本人の起源 古人骨からルーツを探る」中橋考博 講談社 一〇五〇年